

ケーススタディ 博士論文

JPCOAR 人材育成作業部会

2020年12月6日版

準備するもの

- 課題シート
- ワークシート
- JPCOARスキーマ XMLスキーマ定義と項目一覧

「JPCOARスキーマ ガイドライン」 <https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja>
からダウンロードしてください。

※環境があれば、パソコンで実習しても構いません。

はじめに

- このコマで取り扱う博士論文とは、自機関が博士の学位を授与した者が学位の申請にあたって提出された論文を指します。
- 機関や学問分野によっては、査読付きの学術雑誌に掲載された学術論文を博士論文として承認することがあります。（テーシス形式）
また、学術雑誌に掲載された論文と同一の研究内容となることもあります。
- このコマでは、博士論文の公開義務に関すること、学会や学術出版社の著作権や多重公表のポリシーの確認方法と、機関リポジトリに登録するためのメタデータの作成を学びます。

1. インターネット公表の義務について

- ①学位規則
- ②インターネット公表できないやむを得ない事由
- ③国立国会図書館への納本

2. 著作権と多重公表に関するポリシーの確認

- ①留意事項
- ②出版社サイトの例
- ③主な確認事項

3. メタデータを作成する【実習】

- ①JPCOARスキーマについて
- ②メタデータ作成実習
- ③留意事項

1. インターネット公表の義務について

- ① 学位規則について
- ② インターネット公表できないやむを得ない事由
- ③ 国立国会図書館への納本

1. インターネット公表の義務 ①学位規則(1)

・博士論文は、インターネットで公表することが法令によって定められている。

【学位規則】（昭和二十八年文部省令第九号）

第八条 大学及び独立行政法人大学改革支援・学位授与機構は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から**三月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨**をインターネットの利用により公表するものとする。

第九条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から**一年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文**を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該博士の学位を授与した大学又は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、当該大学又は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う**前二項の規定による公表は、当該博士の学位を授与した大学又は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。**

1. インターネット公表の義務 ①学位規則(2)

- ・平成25年度（2013年度）から施行

文部科学省「学位規則の一部を改正する省令の施行について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakuin/detail/1331790.htm

- ・機関リポジトリを使った公表が推奨されている

- ・公開するものは以下の2つ

- ①論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨

- 学位を授与した大学が作成し、3ヶ月以内に大学が公表

- ②博士論文の全文（やむを得ない事由がある場合はその要約）

- 学位を授与した大学の協力を得て、1年以内に本人が公表

1. インターネット公表の義務 ②インターネット公表できないやむを得ない事由(1)

- ・客観的に「やむを得ない事由」があると**大学等が承認した場合**

【例】

1. 立体物を含むなど、電子化ができない
2. インターネット公表に関して、著作権者や個人情報に関する同意が得られない
3. 本として出版する、多重公表を禁止している学術雑誌と同一の研究内容を含む、特許を申請しているなど、インターネット公表を行うことで、今後の研究活動などに不利益が生じる場合

※出版社や学協会が、学術雑誌に掲載された論文の出版社版を学位論文としてインターネット公表することを認めている場合もあります。

1. インターネット公表の義務 ②インターネット公表できないやむを得ない事由(2)

【注意！】

- インターネット公表しない場合でも、博士論文は公表された出版物として取り扱われる。
 - 各機関や国立国会図書館で、求めに応じて閲覧に供される。
著作権法に定められた範囲内での複写も可能
 - 許可なく著作権に抵触する内容や個人情報を含めてはならない
- 「やむを得ない事由」が無くなった場合は、インターネットで公表しなくてはならない。
 - 例えば、本を出版する予定がなくなったなど

1. インターネット公表の義務 ②インターネット公表できないやむを得ない事由(3)

【要約について】

- 1年以内に本文が公表できない場合に必要
- 「要約したもの」は、「要旨」とは別に作成する
- 本として出版する場合は、出版情報（タイトル、出版社、出版年など）と紐付けておくことが望ましい。

※インターネット公表が義務であることを意識して、研究・論文執筆にあたるよう、あらかじめ周知しておくことが必要

→注意事項などを要綱などにまとめて提示しておく

1. インターネット公表の義務 ③国立国会図書館への納本

- 国会図書館への納本方法は、以下の方法があります。

①機関リポジトリから、本文をハーベストしてもらう

IRDBにハーベストされたメタデータを元に、
国会図書館が本文を自動収集します。

*** 正しくメタデータが作成されていないと、連携できません**

②電子データを納本する

全文を公開できない場合や機関リポジトリを使わない場合

③冊子体を納本する

国立国会図書館「国内博士論文の収集」

<https://www.ndl.go.jp/jp/collect/hakuron/index.html>

1. インターネット公表の義務 ③国立国会図書館への納本

- 電子データで納本された博士論文は、国立国会図書館内でのみ提供される。

【博士論文電子化事業について】

- 平成3～12年度までの博士論文は、国立国会図書館によって電子化されているものがある。
→DOIも国立国会図書館が付与している。

国立国会図書館「学位論文（博士）のデジタル化実施に係る著作権処理について

<https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/digitization/theses.html>

2. 著作権と多重公表に関する ポリシーの確認

- ① 留意事項
- ② 出版社サイトの例
- ③ 主な確認事項（まとめ）

2. 著作権と多重公表に関するポリシーの確認 ①留意事項(1)

- **雑誌論文と同一の研究内容を博士論文とする（する予定）場合は、学位論文に関する出版社のポリシーを確認する**

→学位論文は、多重投稿の禁止規定の例外とされていたり、特別に出版社版の利用が認められていることがある。

→学位論文として使用する（多重公表）は認められていても、インターネット公表することは認められていないことがある

本論文とは別に、学術雑誌論文が副論文として提出された場合、副論文はインターネット公表しなくてもよい。

→参考文献情報に記載し、一般への閲覧にも供さない

→許諾が得られれば、通常の学術雑誌論文として登録可能

2. 著作権と多重公表に関するポリシーの確認 ①留意事項(2)

- **審査中の場合は、結果を待ってから**
 - どの雑誌に投稿しているかはプライバシーに関する情報
 - 1年を越える場合は、要約が必要
- **不明な事項は、出版社などに直接問い合わせる**
 - 本人が問い合わせる方が交渉しやすいことも

【テーシス形式の場合】

- **出版社版のインターネット公表が認められない場合は、「やむを得ない事由」とし、要約を公開する。**
 - 著者最終稿が公開できる場合は、それを要約としてもよい。

【Elsevierのポリシー】 <https://www.elsevier.com/about/policies/sharing#Published-article> (2020-11-22参照)

Published Journal Article

Policies for sharing published journal articles differ for subscription

Subscription articles

- If you are an author, please share a link to your article rather than access to the formal publications on ScienceDirect, and so links will use the best available version
- If you are an author, you may also share your Published Journal Article with colleagues for their personal use
- Theses and dissertations which contain embedded PJAs as part of the formal submission can be posted publicly by the awarding institution with DOI links back to the formal publications on ScienceDirect
- If you are affiliated with a library that subscribes to ScienceDirect you have additional private sharing rights for others' research accessed under that agreement. This includes use for classroom teaching and internal training at the institution (including use in course packs and courseware programs), and inclusion of the article for grant funding purposes
- Otherwise sharing is by **agreement only**
- The Published Journal Article cannot be shared publicly, for example on ResearchGate or [Academia.edu](https://www.academia.edu/) ↗, to ensure the sustainability of peer-reviewed research in journal publications.

Theses and dissertations which contain embedded PJAs as part of the formal submission can be posted publicly by the awarding institution with DOI links back to the formal publications on ScienceDirect.

出版社版（Published journal article, PJA）を含む学位論文は、ScienceDirectの論文とDOIでリンクすれば、学位授与機関から公開できる。

【主な確認事項】

- ☐ 投稿論文の研究内容を博士論文としてもよいか（多重公表）、それをインターネット公表してもよいか
- ☐ 投稿論文＝博士論文としてもよいか（テーシス形式）、出版社版をインターネット公表してもよいか
- ☐ 公開ができるバージョン
- ☐ 公開禁止期間（エンバーゴ）
- ☐ 出版社版へのリンクの必要性
- ☐ 著作権，ライセンシングに関する注記

※ウェブサイトでポリシーを確認できない場合は、出版社・学会に問い合わせる。

3. メタデータの作成

- ① JPCOARスキーマについて
- ② メタデータ作成実習
- ③ 留意事項

【JPCOARスキーマ 項目一覧の読み方】

- スキーマとして指定されている必須項目は、「タイトル」と「資源タイプ」のみだが、論文を識別する情報（著者や掲載雑誌に関する情報）、著作権ポリシーで指定されている事項（エンバーゴや権利者情報など）は必然的に必須項目となる。
- 「推奨例」「非推奨例」に記載されている例の<>で括られたタグは、システムによって自動で付与されるので、機関リポジトリシステムには言語属性と値を入力する。

例) <dc:title xml:lang="ja">情報爆発時代の研究基盤構想</dc:title>

- 「語彙」列に統制語彙が記載されている項目は、指定されている統制語彙を入力する。（一覧表の最後に付属している語彙別表も参照すること。）
- 「junii2からのマッピング」の列が、「junii2」で作成されたデータを「JPCOARスキーマ」へ移行する際のデータ移行の規則となる。

* JAIROCloudの場合、「WEKO 3」への移行時にこのルールに沿って移行される。

【JPCOARスキーマガイドラインの使い方】

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja>

JPCOARスキーマガイドライン
JPCOAR Schema Guidelines

サイト内検索

スキーマ説明 改訂履歴 FAQ 問い合わせ 関連サイト

ホーム / JPCOARスキーマ項目の説明

スキーマ項目

タイトル

1 タイトル

◎ 要素名

dc:title

記入レベル: M (必須)
繰返回数: 1-N (繰返可: 必須)

○ 属性

xml:lang

記入レベル: MA (該当する場合は必須)
繰返回数: 0-1 (繰返不可: 必須)

よくある質問は「FAQ」にあります。
ここでも分からないときは、「問い合わせ」フォームから質問できます。

スキーマ説明を選択

項目を選択

- 課題シートの博士論文のメタデータを作成してください。
- 「JPCOARスキーマ XMLスキーマ定義と項目一覧」を使用し、JPCOARスキーマ形式で作成してください。
- インターネットが利用できる方は、「JPCOARスキーマガイドラン」を参照してもかまいません。
- ワークシートには、JPCOARスキーマで使用する主な項目を挙げています。ガイドラインに従って、より詳細なメタデータを作成してもかまいません。

- 課題の回答例は「例」です。メタデータの作成に「正解」はありませんので、各機関で工夫して作成してください。
- 各機関で定めたメタデータの作成ルールは、マニュアル化しておくことを推奨します。

※リポジトリに登録したコンテンツは、全世界の人が半永久的に利用することを考慮しつつ、**各機関が安定的に運用できる方法**を選択してください。

- JAIRO Cloudを利用している場合、 WEKO2からWEKO3へのデータ移行（2020年12月上旬～2021年2月末に予定）する際に、junii2からJPCOARスキーマへの変換が行われます。
- junii2のルールで正しく登録できていないデータは、JPCOARスキーマに正しく変換できないことがあります。
- 要約や要旨は、資源タイプが「学位論文」で移行されます。

参考：「JPCOARスキーマ ガイドライン」FAQ

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/faq>

これで本稿は終わりです。